

令和5年度 特別国体関東ブロック大会 水球競技【戦評】

会場：埼玉県大宮公園水泳場

【2023/8/3】

この試合のプレー集計

1回戦

埼玉県 13 14 千葉県

1	—	2
2	—	3
4	—	0
2	—	4
4	PSO	5

審判： 新井 陸士
加賀美 佳秀

埼玉県	29	SH数	19	千葉県
	5	速攻数	7	
	15	ST・SB	13	
	6	SH・P誘発アシスト	6	
	40%	GK阻止率	57%	
	4	EX反則数	9	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

1P

お互いにしっかり守る水球を展開し、得点の機会がなかなかできない中、埼玉のセンターへのアタックが千葉のペナルティとなり、そこを決めて埼玉が先制。しかし、今年の千葉の実力は関東4強に迫るものがあり、連続得点。その後も埼玉の退水攻撃を守り、試合のペースは千葉が握る展開となった。埼玉も速攻は繰り返すものの、千葉の戻りの速いディフェンスにやや気おくれした様子で1つ2つ無駄なパスで攻撃リズムが今一つ。埼玉1-2千葉で第1ピリオド終了。

2P

地元埼玉のペースが上がらない。千葉は埼玉の速攻を警戒し、かつ、ゴール前ドライブを防ぐディフェンスを敷いているため、埼玉はやや距離のあるレンジからのシュートで決定的な場面が作れない。対する千葉はセンター③染谷を中心に攻撃を組み立て、このピリオドも千葉がリード。埼玉3-5千葉で前半を折り返した。

3P

埼玉がようやくペースをつかみ、ピリオド開始直後に⑤阿部がペナルティを誘発、⑥松原が決めて1点差に詰める。徐々に埼玉らしい攻撃リズムとなった。4:11には⑦市野のパスインターセプトからの速攻を②皆川が決めて同点に。さらに、④永井のパスインターセプトからの速攻時に⑥松原が退水を誘発し、そこを②皆川が決めて埼玉が逆転して、試合の主導権を握り始めた。さらにピリオド終盤に④永井が右サイドから決め、埼玉7-5千葉で第3ピリオド終了。特にこのピリオドは千葉の攻撃を完全に防ぎ、千葉には2本のシュートしか与えなかった埼玉のディフェンス力が機能した形となった。

4P

ピリオド序盤、埼玉側の絶好のゴール前ドライブ攻撃だったが、ノーファウル判定で千葉の攻撃で痛恨のペナルティを埼玉が喫してしまい(誘発者は千葉⑪中山)、千葉側が点差を詰める展開。しかし、埼玉は⑤阿部がGK①大木からのロングフィードを受けて独泳を決めて再び2点差とした。粘る千葉は、直後に⑨阿部が左45° からシュート決めて1点差に戻した。埼玉としてはこの得点後のディフェンスがやや雑になったところが悔やまれる失点となった。再開後に埼玉側⑥松原が退水を誘発すると、当然、埼玉ベンチはタイムアウトを取り、状況の再確認と役割分担の明確化を指示し、そこを⑨稲垣が冷静に決めて2点差リードに(3:20)。焦る千葉は攻撃にミスが出て、なかなかリズムに乗れない。残り1分を切った埼玉側の攻撃では、外周でボールをしっかり回して2点差キープが予想されたが、ドライブ攻撃に出たところを千葉にうまく守られてオフense反則。そこを突かれて痛恨の退水を喫し、千葉⑪中山が決めて1点差(0:52)。それでも埼玉有利な情勢だったが、ここでもオフense反則からの千葉の速攻を繰り返され、ここでも退水を奪われて、⑨阿部が決めてとうとう同点(0:05)。勝負はPSOに(埼玉9-9千葉)。

PSOで千葉が勝負強さを示してBブロック1位決定に進出、埼玉がBブロック3位決定に回ることになった。